

『雪わたり』(JPミ)

宮沢 賢治／著 堀内 誠一／画 福音館書店



野原にふりつもった雪が、すっかりこおった。その板のような雪の上を四郎とかん子が「かた雪かんこ、しみ雪しんこ」と歌いながら歩いていると、いっぴきの小ぎつねが歌にこたえて森から出てきた。「ぎつねは人をだます」という歌に、小ぎつねはそんなことはないと言う。そしてふたりに、ぜひ「幻燈会」に来るようにとさそうのだった。

寒い寒い雪国のお話。



おはなしの庭

日時:令和5年12月26日(火)
10:30から30分くらい
内容:東京子ども図書館の
浅見和子さんによるすばなし
場所:中央図書館 2階
おはなしのへや
対象:5歳から小学生
定員:20名程度(先着順)
申込み:12月12日(火)9:30から
中央図書館へ(電子申請・電話可)

ビブリオバトル

日時:令和5年12月24日(日)
令和6年1月28日(日)
15:00~16:00
内容:1人5分間で、おすすめの本を
紹介し合うゲーム
場所:狭山台図書館 2階 視聴覚室
対象:小学生以上
申込み:不要
持ち物:おすすめの本1冊



図書館のホームページから、読みたい本の予約ができます。
休館日や開館時間、イベント等の最新情報はこちらからご確認ください。

狭山市立中央図書館 ☎ 04-2954-4646

狭山市立狭山台図書館 ☎ 04-2958-3801

狭山市公式HP <https://www.city.sayama.saitama.jp/>



毎月23日は「家庭読書の日」 狭山市教育委員会

よむぞうタイムズ 87号

3年生 4年生

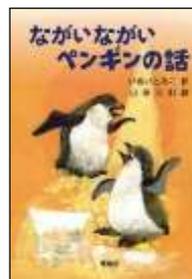
狭山市立図書館 2023.12.15 発行

冬になると、寒くてふとんから出るのがつらくなるね。でも、地球上にはまだまだ寒い場所がある。南極ではマイナス90度くらいになることがあるんだって。それってどんな寒さなんだろう？今回は雪と氷の本をしょうかいするね。



『ながいながいペンギンの話』(JP1/JM1)

いぬい とみこ／作 山田 三郎／絵 理論社



南極の島で生まれたペンギン兄弟ルルとキキ。ある日ルルは、こっそり家から外に出た。初めての氷の世界は楽しいけれど、きけんもいっぱい。つかれたルルは家に帰ろうと歩き出した。でも足はふらふら、いまにもたおれそう。がんばれルル！きみのぼうけんはまだ始まったばかりだ。

『雪の写真家ベントレー』(EE7)

ジャクリン・ブリッグズ・マーティン／作 メアリー・アゼリアン／絵
千葉 茂樹／訳 BL出版

ごう雪地帯の村に住むウィリーは、なによりも「雪」が好き。顕微鏡で見た雪の結晶の美しさをみんなにも知ってほしかった。17歳の時、とても高価な顕微鏡つきのカメラを手に入れたウィリーは、何度も失敗をくり返しながら雪の写真を撮り続けた。今から150年ほど前に実在した「世界的な雪の専門家」ウィリー・ベントレーの物語。



『雪の日のたんじょう日』(JSケ)

ヘレン・ケイ/さく バーバラ・クーニー/え
あんどろ のりこ/やく 長崎出版



スティーブンの誕生日は12月。とても寒くて、友だちの誕生日会みたいに外で楽しく遊べない。でも、もし雪がふれば、絶対におもしろくなる！「誕生日にぼくがいちばんほしいものは雪なんだ。」誕生日の前日、スティーブンの願いどおりに雪がふりだした。

ところが雪はどんどんふり続け、除雪車が出るほどの大雪に。みんなは誕生日会に来てくれるのだろうか？

『スノーマン』(JBモ) クリスマスのお話

マイケル・モーパーゴ/作
レイモンド・ブリッグズ/原作 ロビン・ショー/絵
佐藤 見果夢/やく 評論社



明日はクリスマスイブ。「雪がふらないかなあ。」ベッドの中でジェームスは大好きな絵本に出てくるようなスノーマンをつくりたいと思っていた。夜明け前にふしぎな明るさで目をさますと、窓の外はいちめん真っ白な雪。そっと庭に出たジェームスの頭にすてきな考えがうかんできた。

絵本『スノーマン』(レイモンド・ブリッグズ/作)をもとに書かれた、新しいお話。

『ホッキョククジラのボウ』(EKホ) 200年のたび

アレックス・ボースマ/作・絵
ニック・パイエンソン/作 千葉 茂樹/訳 小学館



ホッキョククジラはとても長生き。ボウの生まれた200年くらい前、北極海は厚い氷におおわれていて、お母さんから氷をわるわざを教わった。150年ほど前には多くのクジラとりがやって来た。そしていま…。

海の氷は少なくなり、たくさんの船が自由に行き来するようになった。ホッキョククジラたちは、人間が変えてしまった海でこれからも生き続ける。

『ソフィー・スコットの南極日記』(J297レ)

アリソン・レスター/作 斎藤 倫子/訳 小峰書店



南極大陸に行ける！南極の基地まで人や荷物を運ぶパパの船に乗って二週間。海があった日もあったけど、冰山を見たり、ペンギン

たちにもあいさつできた。目の前に基地が見えても、船の行く手を氷がじゃまして進めない。初めて聞くアザラシの歌声。夜空に光る緑色のオーロラ。「南極ってどんなところ？」って思ったら、ぜひこの本を読んでみてね。

『十二の月たち』(EJデ)スラブ民話

ボジェナ・ニェムツォヴァー/再話
出久根 育/文・絵 偕成社

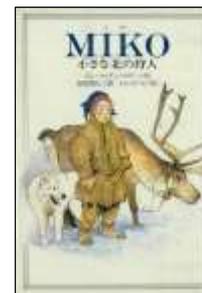
「山からスミシをつんできてちょうだい。」いじわるな姉さんから言われて、マルシュカは雪がふりつもる山へ出かけていった。寒さにふるえ、やっと山頂にたどり着くと、そこにはたき火を囲



んですわる十二人の男の人たちがいた。マルシュカの話を書いて、その中の一人が立ち上がってつえをふった。すると、あたりはたちまち春になって…。

『Miko』(JSダ) 小さな北の狩人

ブルース=ダンハウアー/作 金原 瑞人/訳
トム=ポート/絵 講談社



ミコの住む国では冬になると太陽が何週間も顔を出さない。寒いテントの中でおじいちゃんが、暗い冬が長く続いた話をしてくれた。太陽と月の娘レイヴナが冬の王につかまり、おどされた太陽は顔を見せなかったという。

それにしても、今年の冬は寒くて長い。もしかしたら、娘がまた冬の王につかまったのかもしれない。ミコは夜中にテントをぬけ出し、そりで王の山へと向かった。

<さやまの100冊> 「子どものときに読みたい本100冊」(さやまの100冊)は、教育委員会がおすすめしている本です。ぜひ、読んでみてください。

